

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572510659		
法人名	社会福祉法人 青嵐会		
事業所名	グループホーム たんぽぽ西目		
所在地	秋田県由利本荘市西目町沼田字新道下2-6		
自己評価作成日	平成27年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成27年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の個々の能力を活かし役割を持って生活を送られている。 週1回の健康チェックにて相談できる環境の中で過ごしていただいている。 家庭で過ごされている雰囲気に近い環境づくり、その人らしさを尊重し安心、笑顔で過ごせるよう職員一丸となり取り組んでいる。</p>
--

<p>2ヶ月に一度、地域運営推進会議がホームを会場に開催されている。地域福祉の理解に協力的な地域であり、ホームの運営に係る詳細な内容まで協議され、議事録の内容から専門性の高い会議であることが確認できた。会議終了後、入居者とお茶で交流する機会もあるとのこと。毎月地域の広報にホームからの記事や写真が紙面を賑わしており、町内に向けた脱水対策等の啓蒙活動も紙面より確認できた。ホームの記事が掲載された町内広報は利用者全家族へ配布されている。気づきノートを採用しており、些細な気づきでも仲間と確認しては記載し、カンファレンスの資料として活用している。毎月の職員研修会の講師を全職員が輪番で担っている。母体が社会医療法人であることも利用する側の安心感につながっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い作成した理念を見やすい場所に掲示、意識の共有、実践に取り組んでいる。	設立当初に全スタッフが協議し作成したホームの理念に沿い、既成概念にとらわれず自由奔放にアイデアを出し合うBS法を活用し年度目標を作成している。年度目標が見やすい大きな文字で玄関に掲げられていることが確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事に参加したり、ドライブに出かけたり、町内を散歩する時は挨拶を交わしている。	前回の評価結果を踏まえ、町内会長に町内広報へのホームからの寄稿を打診した。結果、4月より毎月広報わかまつにホームの記事や写真が載り、紙面を賑わすにまで至った。町内に向けた脱水対策等の啓蒙活動も紙面より確認できた。ホームの記事が掲載された町内広報は利用者全家族へ配布されている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	実習生を受け入れたりしている。老健職員と当ホーム職員との交換実習も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に関し意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	地域運営推進会議がホームを会場に2ヶ月に一度開催されている。地域福祉の理解に協力的な地域であり、ホームの運営に係る詳細な内容まで協議されている。議事録の内容から専門性の高い会議であることが確認できた。会議終了後、入居者とお茶で交流する機会もあるとのこと。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議への参加、推進会議の開催、認定調査時情報提供し、連携に努めている。	運営推進会議には介護保険担当の地域福祉課の他、保健師も参加してくれている。社協や特養等の関係事業所が一同に会する月々の地域ケア会議に参加し、地域における様々な情報を捉え、協議され、その対策を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束を行う入居者はいないが、定期的に勉強会を開催、拘束しないケアに取り組み、また、職員間でも話あっている。	毎月職員の研修会を実施しており、身体拘束防止に向けた内容が年間計画から確認できた。玄関にはチャイムを設置、夜間は入口に施錠している。着替えてはカバンを持ち、買物と称しては一日に何回も外出する入居者の後ろから、職員が見守りながら付き添う姿が確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い意識を高め、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が把握している訳ではない。活用もされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者が説明をし理解、了承を得ている。また、いつでも疑問点など相談できるよう声かけし説明、理解、納得の得られる取り組みをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情箱を設置しているが、活用利用者や家族が意見や要望を話しやすい雰囲気作りをし、職員間で話し合い反映させている。	本人が寒がっていると娘より訴えがあった。職員へは気遣ってか「暖かい」と言っていた。本人が娘の気持ちを自分に向けたい現れと知り、来訪の機会につながった。独居の方や家族が遠方のケースが多い実態にある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや状況に応じて、話し合う機会を設け反映させている。	カンファレンスに事情により欠席する際は、事前に意見を提出し、議事録に目を通し捺印している。気づきノートを採用しており、些細な気づきでも仲間と確認しては記載し、カンファレンスの資料として活用している。夜勤者の献立材料の注文業務が負担であることから、その軽減対策を検討し、効果をあげたとのこと。	職員の資格取得を法人として推奨しているが、職員の資質向上に向けた自己啓発の観点から、事業所として今後も更なる資格取得を推奨するよう期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表の自己評価をもとに、面談等を行い職員の状況を把握し、職場環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加する機会があり、ホーム内での勉強会も定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加やGH連絡協議会参加などで各職場の方々とのネットワーク作りをしサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情、動作等を観察しながら話しやすい環境づくりに努め、安心出来るように声かけし、信頼関係につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や入居開始時、家族の不安や要望を傾聴しながら受け止め、関係性が築けるようにしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作業を共に取り組みながら知恵や慣わしを教えて頂いたり、共に支え合う関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事の参加や受診介助、面会、外出、外泊等、電話での会話など家族の協力を得ながら、本人の生活を共に支援している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事の参加、知人、隣人の面会があったり、馴染みの場所に出かける機会を多く作ったり、家族の協力を得ながら支援している。	県内遠方の息子が、冬囲いの時期に自宅へ連れ出してくれるとのこと。ドライブの際には入居者の自宅を通るよう工夫している。外出先の本荘公園やハーブワールドで知り合いと逢うことも多い。向かいの近隣施設への訪問者が入居者の知り合いだと連れて来てくれるとのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう職員が間に入り交流したり、気の合う人同士が関わりを持てるよう支援したり、行事や作業を通して、お互いが支え合えるように努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族らが来居されたり、老健へ出向き面会など行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望、要望を聞く機会を設け、カンファレンス等で話し合い出来る限り、希望や想いを取り入れ意に添うよう努めている。	比較的活動できる入居者が多く、山菜の下処理・テーブル拭き・盛り付け・チラシを活用してのゴミ箱作り・洗濯物たたみ・干し柿作り・酢の物作り・畑作業・部屋掃除・買物等々、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿い生活している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や環境等の情報を家族やケアマネジャーから提供してもらい、自宅を訪問させていただいたり把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況を把握し、本人の出来ることを見極め把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意見、要望を聞きながら、又、日々の会話の中から情報を得たり、カンファレンスやその都度話し合い現状に応じた計画を作成している。	毎月の利用料支払いに家族が来訪した機会に、介護計画に対する意見や要望を聞き取り反映させるようにしている。モニタリングに向け、職員の気づきやアイデアを集計し、介護計画に反映させるよう取り組んでいる。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録、気づきノート、カードックス記載、申し送りやカンファレンスで共有し、日々のケアに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、実習生の受け入れ、医療機関、併設施設、地域住民、消防等の協力を得ながら安全な暮らしができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関への受診が受けられるよう支援している。又、家族が受診介助する場合は、情報提供用紙を持って行ってもらっている。歯科医は協力医とし、家族に入居時説明、同意を得ている。	家族が受診介助する際の情報提供用紙に、医師が返答してくれるよう様子を工夫している。誤薬防止に向け、内服薬の仕分け業務に間違いが発生しないよう、ホームかかりつけの薬局との連携を密にし、協力し合う体制にある。隣接する法人内の施設の看護師の存在が心強いとのこと。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師が週1回健康チェックに来居、また、随時相談や受診指示など対応できている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報提供を密に行い、また、随時連携を図りながら、早期退院できるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明、同意を得ながら早めの対応策に向け、方針を共有し、状況に応じ取り組んでいる。	ホームでの看取りは実施していないが、入居時に契約書と重要事項説明書の範囲で説明している。入居者の状況の変化に応じ、必要があれば都度家族に相談し今後の方向性を話し合っている。母体が社会医療法人であることも利用する側の安心感につながっている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会や救命講習など受講し把握に努めているが、いざという時の実際の場面で、速やかに対応出来るかは不安である。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い地域住民を協力員として、体制整備し、併設施設の協力体制を築いている。	前回の評価結果を踏まえ、地域住民や併設施設職員、あるいは家族でも把握しやすいよう、ホーム見取り図、避難方法、マニュアルを掲示している。併設施設との職員交換研修により、互いに事業所の特徴を理解し、利用者個々の心身状態に合わせた応援ができるよう取り組んでいる。	避難訓練時の地域住民による避難誘導の役割については、利用者個々の心身状態の熟知が必要であることから、消防署の指導を仰ぎ、その範囲について再検討するよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳をもった言葉かけや接し方を意識し、心がけている。言葉使いが的確でない場合等は職員間で注意し合っている。	入居者一人ひとりの特性に考慮した言葉遣いに心がけている。運営推進会議において事例紹介も行っていることから、運営推進会議の委員にも個人情報に関する守秘義務について周知している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を、意志表示できるように支援し、出来ない人には表情や動作を観察しながら、自己選択できるよう職員と一緒に話し合いながら行えるように努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムを大切にしながら、その人に合ったペースで生活できるように支援しているが、ホーム側の都合で希望に添えないこともある。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院を利用し行事や外出、受診時には、好きな服を選んだりオシャレを楽しまれている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ役割を持ちながら、職員と一緒に調理、片付けをしている。又、畑で収穫した野菜を取り入れ食事を楽しめるように支援している。	調理手伝いから配膳下膳、テーブル拭きまで、食事に至るほぼ全過程にできる範囲で入居者が関わっている。「いただきます」の声かけの得意な入居者の声や今日も響いている。職員が見守りながら一緒に会話を楽しめるよう支援する姿が確認できた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士の献立をもとにして、個々に応じた量や好みの食材を調整して提供している。水分量も個別に対応している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内に食残物が残らないように、毎食後お茶を飲んでもらっている。毎食後の歯磨きの声かけや就寝前、義歯洗浄、週3回洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けし、トイレ誘導している。個々のその時々の状況に応じて綿パンツ、リハビリパンツなど種類を使い分けて支援している。また、夜間のみポータブルトイレを使用する方もいる。	夜間ポータブルトイレを利用していた入居者は、現在トイレ誘導での排泄に切り替わっている。歩いてトイレへ行くことの効果を理解し、個々の状況に合わせた排泄の自立へ取り組んでいる。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて起床時、水を飲んで頂き、朝食時乳製品を取り入れている。散歩やレクリエーションに適度な運動を取り入れている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日別で午後入浴のみとなっているが、個々の健康状態(失禁、皮膚疾患等)受診等を見ながら、その都度支援しているが夜間入浴は職員1人のために希望に添えない状況にある。	月水金か火木土の週3日の午後が入浴の時間帯であるが、受診や外出の都合に合わせて変更しながら実施している。希望を受け入れ予定外でも入浴できるよう配慮している。1名を除き、何らかの介助を要する状況で、洗体洗髪の介助は欠かせない。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や畳、ソファ等で思い思いに休息し、夜間は、照明や寝具を状況に応じて工夫し、安心して眠れるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を活用しながら、把握している。臨時薬の場合は、状態を観察しながら副作用の有無を把握したり、併設施設の看護師に相談したりしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを役割として取り組めるように畑仕事や外出等で、気分転換を図れるよう支援している。晩酌の習慣のある方には夕食時にノンアルコールビールを提供している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの行事での外出、散歩、買い物、畑仕事等、日常的に閉じこもらない生活を心がけている。又、家族の協力を得たり、個別の外出も心がけている。	隣接する老人保健施設のワゴン車を借出し、ダリア園、ブルーメッセ等観光地へも出かけている。外食では入居者が各々の好みで注文しており、アイスクリームが人気とのこと。受診を含め、家族と共に外出する機会も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預り金として管理しているが、管理出来る方は、自分で管理し、受診時、美容院、買い物等の支払いをされており職員が見守りしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時は、電話出来るよう支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気を心がけ、温度、湿度の管理をし、不快を招かないよう配慮し、季節の花や貼り絵など飾り季節を感じる居心地のよい環境に努めている。	入居者が作成した大きな月日と曜日をホールから見やすい位置に表示して他、季節を感じさせる貼り絵も特徴的である。居間(ホール)つながりの広々としたサンデッキが羨ましい。サンデッキの上にはみんなで作った干し柿が下がっていた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに居室、ソファー、畳、ベランダ等で利用者同士で語り合いながら、くつろいで過ごしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、使い慣れた家具、家族の写真、位牌等持って来られ、心地よく過ごせるよう工夫している。	洗面台、昇降台、クローゼット、エアコンが備え付けであり、それ以外はあえて全て持ち込みとなっている。微笑ましい行事や家族の写真、あるいは本人の作品が所狭しと壁に飾られている。植物を育てることが得意な入居者の存在が居室やホームの環境美化につながっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでトイレ、居室に表示する等工夫し、安全に生活できるように支援している。また、廊下などは障害物など置かないよう安全な歩行に配慮している。		